

ボンド・アンド・カレンシー  
トータルリターン・ファンド  
(毎月決算型)

(愛称) ツインストーリー

追加型投信／海外／債券

第85期 2020年3月16日決算 第86期 2020年3月25日償還  
作成対象期間 (2020年2月15日～2020年3月25日)

第86期末 (償還日 2020年3月25日)	
償還価額	8,018円75銭
純資産総額	69百万円
第85期～第86期	
騰落率	△8.3%
分配金合計	20円

\*騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

- ◆運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。
- ◆当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)については、以下の手順で閲覧およびダウンロードすることができます。

<閲覧方法>

<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/> にアクセス→  
ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ  
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 運用報告書についてのお問い合わせ  
フリーダイヤル 0120-88-2976  
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

このたび「ボンド・アンド・カレンシー トータルリターン・ファンド(毎月決算型)(愛称：ツインストーリー)」は、信託約款の規定に基づき、2020年3月25日をもちまして繰上償還いたしました。

当ファンドは、円建て外国投資信託証券への投資を通じて、主に米ドル建てのさまざまな種類の債券に実質的に投資し、市場環境に応じて債券種別の配分比率を機動的に変更することで、トータルリターンの獲得を目指して運用を行いました。また、主に先進国通貨(10通貨)を対象に分散投資を行うことにより、為替収益の獲得を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

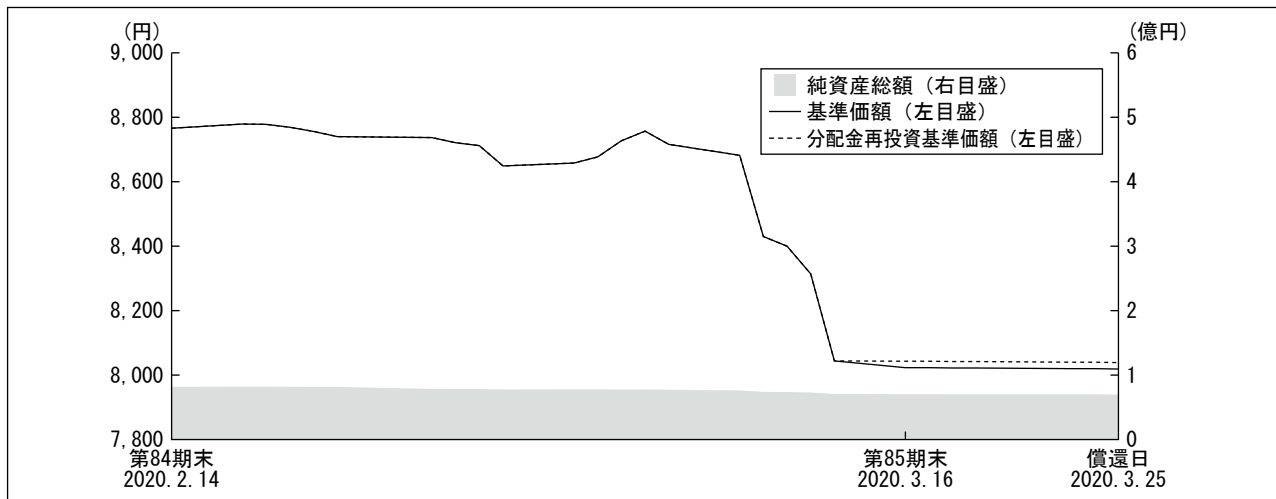


三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6228 東京都港区愛宕2-5-1  
<https://www.smd-am.co.jp>

## 運用経過

### 【基準価額等の推移】



\*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

\*分配金再投資基準価額は、作成期首の基準価額を基準に算出しております。

\*分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

第85期首：8,766円

償還日：8,018円75銭（作成対象期間における期中分配金合計額 20円）

騰落率：△8.3%（分配金再投資ベース）

### 【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、Total Return Fund ACS Classへの投資を通じて、主に米ドル建てのさまざまな種類の債券に実質的に投資しました。また、主に先進国通貨（10通貨）を対象に分散投資を行うことにより、為替収益の獲得を目指して運用を行いました。

（上昇要因）

債券戦略においては、インフレ連動債のセクターがプラスに寄与しました。通貨戦略については、ニュージーランドドルのショート・ポジションなどがプラスに寄与しました。

（下落要因）

債券戦略においては、ハイイールド債や投資適格社債のスプレッドが拡大したことなどからマイナスに作用しました。通貨戦略においては、ノルウェークローネのロング・ポジションなどがマイナスに作用しました。

## 【1万口当りの費用明細】

項目	第85期～第86期		項目の概要
	2020年2月15日～2020年3月25日		
	金額	比率	
信託報酬	19円	0.214%	信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率 作成期中の平均基準価額は8,649円です。
(投信会社)	(11)	(0.133)	ファンドの運用等の対価
(販売会社)	(7)	(0.078)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(0)	(0.003)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	0	0.001	その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.001)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	19	0.215	

\* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

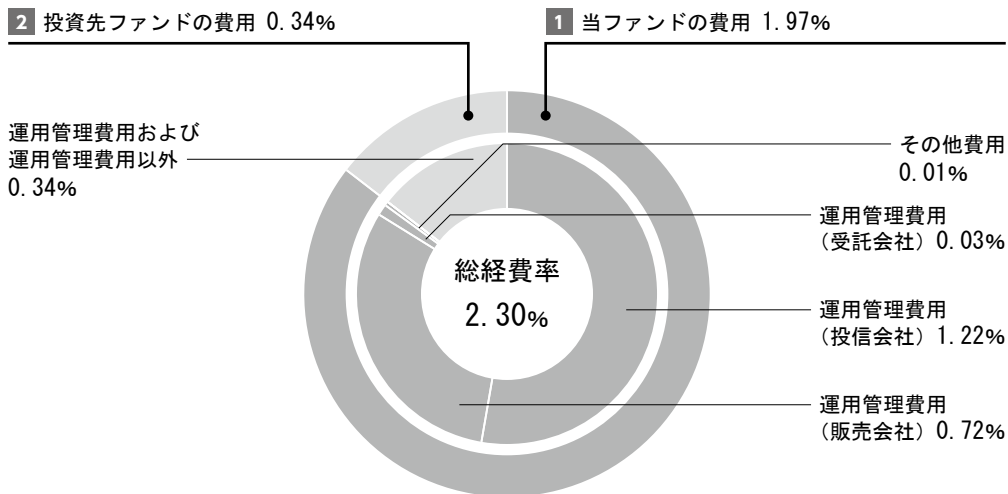
\* 作成期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

\* 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

\* 各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

## 参考情報 総経費率 (年率換算)

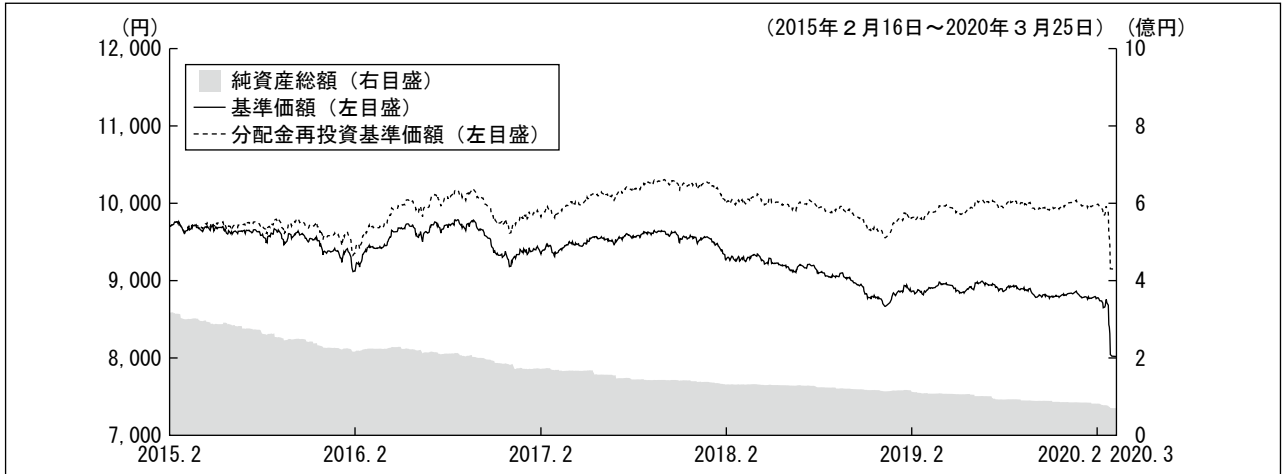


総経費率 (1 + 2)	2.30%
1 当ファンドの費用の比率	1.97%
2 投資先ファンドの費用の比率	0.34%

- \*1の各費用は、前掲「1万口当りの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当りの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。
- \*2の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できないため、まとめて表示しています。また、投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。
- \*1と2の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。
- \*上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額(1口当り)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は2.30%です。

## 【最近5年間の基準価額等の推移】



\*当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

\*分配金再投資基準価額は、2015年2月16日の基準価額を基準に算出しております。

\*分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。

	2015年2月16日 期初	2016年2月15日 決算日	2017年2月14日 決算日	2018年2月14日 決算日	2019年2月14日 決算日	2020年2月14日 決算日	2020年3月25日 償還日
基準価額 (円)	9,710	9,123	9,376	9,277	8,868	8,766	8,018.75
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	240	240	240	240	240	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△3.7	5.4	1.5	△1.8	1.6	△8.3
純資産総額 (百万円)	317	216	172	131	116	81	69

## 【投資環境】

当作成期の米10年国債利回りは作成期を通して見ると低下しました。新型コロナウイルスの感染拡大によるセンチメント（市場心理）の悪化およびグローバル経済成長に対する懸念の高まりを受け、3月3日にFRB（米連邦準備制度理事会）は緊急利下げを実施しました。また、米国・欧州を中心に新型コロナウイルスの感染拡大状況が悪化していることや、原油価格の急落を受け、リスク回避姿勢の高まりから米10年国債利回りは過去最低を更新しました。なお、FRBは15日にも1.0%の追加緊急利下げを実施したものの、影響は限定的となりました。その後、米国政府による1兆ドル規模の財政出動に対する期待感の高まりなどを受け、金利が上昇する局面が見られたものの、3月後半にかけては新型コロナウイルスの感染拡大を受け再びセンチメントが悪化したことなどから、利回りは低下しました。

為替市場では、作成期を通して見ると小幅の円安・米ドル高となりました。作成期初から3月上旬頃にかけて新型コロナウイルス感染拡大による世界経済の減速懸念などを背景にリスク回避姿勢が強まる中、FRBの緊急利下げなどを背景に、円が選好され円高・米ドル安となりました。その後は、米ドル資産を現金化する動きが強まったことなどを受け米ドル需要が高まったことから円安・米ドル高となりました。

国内短期金融市場では、作成期首-0.13%近辺でスタートした国庫短期証券3ヵ月物の利回りは、3月の年度末を控えた担保需要や外国人投資家の短期の国債需要の高まり等を受けて低下基調で推移し、-0.44%近辺で償還日を迎えました。

## 【ポートフォリオ】

### ■ボンド・アンド・カレンシー トータルリターン・ファンド（毎月決算型）

主要投資対象であるTotal Return Fund ACS Classを作成期を通じて組み入れました。その後、2020年3月の償還に向けて売却し、2020年3月25日に繰上償還いたしました。

### ■Total Return Fund ACS Class

債券戦略においては、クレジット資産を中心とし、投資適格社債、ハイイールド債に加えて、政府系MBS（不動産担保証券）を高めめの配分としました。

通貨戦略においては、購買力平価の観点などから過大評価されていると見ているスイスフランやカナダドルのショート・ポジションを維持する一方、实体经济に照らし合わせて、長期的に割安と見ている日本円や、ファンダメンタルズ（基礎的条件）の観点から過小評価されていると見ているノルウェークローネのロング・ポジションを維持しました。

## ■キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

※設定以来の運用経過につきましては、運用報告書（全体版）をご覧ください。

### 【ベンチマークとの差異】

当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

### 【分配金】

分配金は、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第85期20円とさせて頂きました。（1万口当り税込み）

なお、第86期につきましては、償還のため、分配は行っていません。

## ■分配原資の内訳

（1万口当り・税引前）

項目	第85期	
	2020年2月15日 ～2020年3月16日	
当期分配金 (円)		20
(対基準価額比率) (%)		0.25
当期の収益 (円)		20
当期の収益以外 (円)		—
翌期繰越分配対象額 (円)		1,135

※円未満を切り捨てしているため、「当期分配金」は「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計額と一致しない場合があります。  
※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## お知らせ

該当事項はございません。

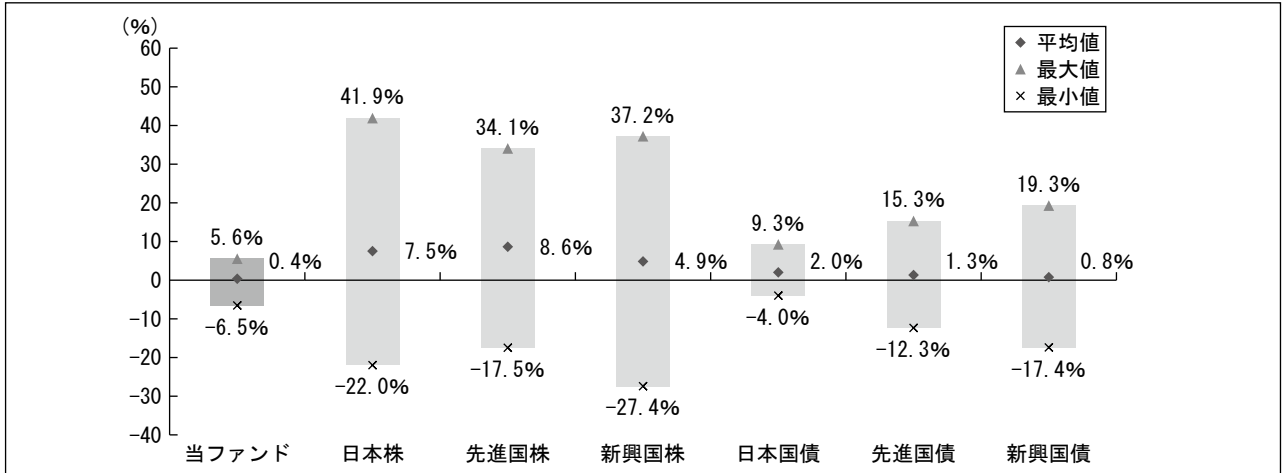
### 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2013年2月28日から2020年3月25日（当初、2023年2月14日）までです。	
運用方針	円建て外国投資信託証券への投資を通じて、主に米ドル建てのさまざまな種類の債券を実質的な投資対象とし、信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行います。	
主要投資対象	当ファンド	・ Total Return Fund ACS Class受益証券 ・ キャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券
	Total Return Fund ACS Class	米ドル建ての多種多様な債券等
	キャッシュ・マネジメント・マザーファンド	本邦通貨建て公社債および短期金融商品等
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 主に米ドル建てのさまざまな種類の債券に実質的に投資し、市場環境に応じて債券種別の配分比率を機動的に変更することで、トータルリターン（利息収入＋値上がり益）の獲得を目指します。</li><li>・ ファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。</li><li>・ Total Return Fund ACS Classへの投資比率は、原則として高位を保ちます。</li><li>・ 外国投資信託証券において、組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。</li><li>・ 主に先進国通貨（10通貨）を対象に分散投資を行うことにより、為替収益の獲得を目指します。</li></ul>	
分配方針	毎月14日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。 * 分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。	



## 【当ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較】

(2015年3月～2020年2月)



●上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

\*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

\*騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

### <各資産クラスの指数について>

資産クラス	指数名	権利者
日本株	TOPIX (配当込み)	株式会社東京証券取引所
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.
日本国債	NOMURA-BPI国債	野村証券株式会社
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	FTSE Fixed Income LLC
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	J.P.Morgan Securities LLC

(注) 上記指数に関する著作権等の知的財産権およびその他一切の権利は、各権利者に帰属します。各権利者は、当ファンドの運用に関して一切の責任を負いません。

## 当該投資信託のデータ

### <<当該投資信託の組入資産の内容>>

償還日現在、有価証券等の組み入れはありません。

#### 【純資産等】

項目	第85期末	償還時
	2020年3月16日	2020年3月25日
純資産総額	70,411,292円	69,855,777円
受益権総口数	87,759,598口	87,115,546口
1万口当り基準価額(償還価額)	8,023円	8,018円75銭

\* 当作成期間中における追加設定元本額は66,209円、同解約元本額は6,290,545円です。